

## 会議録

会議の名称	令和4年度 加古川流域滝野歴史民俗資料館運営委員会
開催日時	令和4年11月30日(水) 10時00分から11時30分まで
開催場所	加東市滝野公民館1階研修室(加東市下滝野1369番地)
出席及び欠席委員の氏名	(出席委員4人) 神戸滋和、西山修三、山田将人、湖内克利 (欠席委員0人)
説明のため出席した者の職氏名	無し
出席した事務局職員の氏名及びその職名	加東市教育委員会 教育長)藤原哲史 教育振興部 部長)田中孝明 教育振興部生涯学習課 課長)岸本孝司 副課長)三和田剛浩 係長)岸本素直 主査)藤原光平
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>I 会議内容</p> <p>1 報告事項</p> <p>(1) 令和3年度加古川流域滝野歴史民俗資料館の事業報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷旧尾崎家の運営状況</li> <li>・寄贈、寄託資料</li> <li>・文化財企画展</li> <li>・ギャラリー活用事業/収蔵品展</li> <li>・加東遺産講座</li> <li>・資料館講座/文化財教室</li> <li>・その他</li> </ul> <p>(2) 令和4年度加古川流域滝野歴史民俗資料館の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料館無料開放事業</li> <li>・寄贈、寄託資料</li> <li>・ギャラリー活用事業/収蔵品展</li> <li>・加東遺産講座</li> <li>・資料館講座/文化財教室</li> <li>・三草藩武家屋敷(表門・通路)修繕工事</li> <li>・その他</li> </ul> <p>2 協議事項</p> <p>加古川流域滝野歴史民俗資料館の運営について</p> <p>3 現地視察</p> <p>加古川流域滝野歴史民俗資料館</p> <p>II 会議の経過</p> <p>別紙のとおり</p>

(別紙)

令和4年度加古川流域滝野歴史民俗資料館運営委員会 会議の経過

発言者	会議の経過／発言内容
事務局	1 開会
教育長	2 挨拶
事務局	委員の紹介、逝去の報告
事務局	3 報告事項
	(1) 令和3年度加古川流域滝野歴史民俗資料館の事業報告を説明
	・加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷旧尾崎家の運営状況
	・寄贈、寄託資料
	・文化財企画展
	・ギャラリー活用事業／収蔵品展
	・加東遺産講座
	・資料館講座／文化財教室
	・その他 文化財事務所の移転
	地域交流センター（ロビー）常設展示の開始
	電子黒板等の映像機器導入
	自動火災報知設備の更新
	＜質疑・意見等＞
委員	市外からの観覧が大勢だが、何処から来られている人が多いのか、特徴や傾向はあるのか。
事務局	近隣市町からの来館を始め、県内外の都市部からの来訪が多い。近畿圏外から来られる方もあり、遠方の人ほど都市部からの傾向にある。このような方は滞在時間も長く、熱心に鑑賞されており、歴史愛好家のように見受けられることが多い。
委員	遠方の方は、資料館の存在をどのようにして知られているのか。
事務局	市のホームページ等で紹介している。又、県の博物館協会に加盟しており、施設一覧などで広域的なPRも行っている。
委員	山田錦等の稲作は古くから播磨の特産であり、地域社会に密着した主要な産業文化である。昨今は農業と暮らしの関係が希薄になりつつあるが、資料館は米作りを通じて郷土の歩みを紹介する貴重な施設であり、地場産業の生い立ちに関心を持つきっかけとなるよう、農業の伝統を後世に伝えてほしい。
事務局	資料館では地元の伝統農業の展示にも大きな比重を置いている。学校等からの施設見学では、身近にある現代農業との違いを興味深く観られ、時代の変遷を肌で感じられている。山田錦に特化した展示はしていないが、今後、調査を重ね、地域の営みとの関わりを紹介することで、展示の厚みを増していければと思う。
委員	山田錦に限らず、播州の米作りと農業文化の継承の点から検討願う。
	＜ほかに質疑・意見等なし＞

事務局	<p>(2) 令和4年度加古川流域滝野歴史民俗資料館の事業を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料館無料開放事業</li> <li>・寄贈、寄託資料</li> <li>・ギャラリー活用事業／収蔵品展</li> <li>・加東遺産講座</li> <li>・資料館講座／文化財教室</li> <li>・三草藩武家屋敷（表門・通路）修繕工事</li> <li>・その他 展示パネル購入</li> </ul> <p style="text-align: center;">＜質疑・意見等なし＞</p>
事務局	<p>4 協議事項 加古川流域滝野歴史民俗資料館の運営について</p>
委員	<p>歴史民俗資料館は有料観覧施設だが、特別展や三草藩武家屋敷は無料である。他市町では無料施設が多く、特別展が有料の場合が多々ある。当資料館も他市等に倣って無料化にしてもよいのでは。</p>
事務局	<p>企画展は市の施設で行う場合が多く、施設代の経費が掛からないので入館料も取っていない。資料館内で企画展示をする際は通常の入館料のみを徴収している。開催運営及び施設使用に係る諸条件が料金設定の要因となっている。</p>
事務局	<p>観覧料の有無による入館者数への影響は少なからずあるとみており、出来るだけ多くの方に来館してほしいと考えた時に無料化も一案である。特別展は多数お越しいただきたいという思いもあり、場所代が要らない市の施設を利用することで、観覧者に負担を求めている。出来るだけ門戸を広げ、加東の遺産や文化財に触れて貰えるような形に出来ればと思う。</p>
委員	<p>博物館法を準用するのであれば、対価を徴収しないのが原則だ。当資料館の運営規模では観覧料を取らなくても管理運営に与える影響は大きくないと思う。その一方で、無料化が観覧者数を大きく伸ばすとも考え難い。</p>
事務局	<p>当資料館は公共施設であり、特定の益を被る者に相応の負担を課すことも公平性の面からは踏まえなければならない。無料化による効果や弊害などを整理するとともに、社会情勢等も勘案し、総合的に検討していくべきものと考えている。なお、これまで、明確な目的を持った無料開放事業を行うことで一定の成果を上げてきており、このことも検証材料とみている。</p>
委員	<p>先程も農業に係る話があったが、展示物の時代性が現代の人々と乖離しつつある。我々の年代には昔を彷彿させるものが多いが、昭和の前半など近代のものを懐かしむ世代が主流になってきており、これからは農機具の機械化の変遷などが新たな学習材料になるのではないか。資料の調査収集や展示は大変だが、後々に貴重な資料になるであろう。もう一点、現在、加古川の河川改修が進み、沿岸地域では村を挙げて取り組まれており、人々の生活に大きな変化が生じている。その変わりゆく様子を資料として残してほしい。学校で子供達が学習の中で取り組んでもよいと思うし、その後支えや、又、共に出来ればとも思う。</p>
事務局	<p>農機具の進化や衰退等による営みの移ろいなど、時代に追従した展示は入館者の声からも必要性を感じている。展示物の歴史資料化が進んでおり、郷土民具の展示施設として資料館を捉えると、時代に即した更新は必要と考えている。しかし、消費社会の成熟で現存する物が乏しく、更には、地域性を兼ね備えた紹介をしていくことは大変難しいところである。広く他</p>

<p>委員</p>	<p>の官民機関との連携や映像資料の活用など、手段方法を工夫することで可能性を見出していければと思うが、今後の課題としたい。河川改修については従前から注視しているが、治水及び防災の必要から進められているもので現形等の保存は非常に難しい。せめて、少しでも記録や記憶を残し、在りし日の姿を後世に引き継いでいくことが出来ればと考えている。これまでも舟運の船着き場など歴史的に重要な箇所は展示紹介している。近年の撮影技術の向上とともに記録作業も粛々と進めており、どこかの段階で成果を発表する場を持ちたい。</p> <p>地域の集落では昭和の貴重な資料が置き去りにされることがしばしばあり、保存や継承に意義を感じる区長だけが奔走されている。そのような取り組みへの思いや重要性を汲み取り、周囲から見守っていただきたい。</p> <p style="text-align: center;">＜ほかに質疑・意見等なし＞</p>
<p>事務局</p>	<p>これを以て会議室での協議は終了する。先ほど報告した寄贈品について、この場で実際に観ていただいた後、歴史民俗資料館の視察を行い、ご意見を賜りたい。</p> <p style="text-align: center;">＜寄贈品の実物紹介＞</p> <p>5 現地視察 加古川流域滝野歴史民俗資料館</p> <p>6 閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>